

# 大津市会議員団ニュース

日本共産党大津市会議員団 大津市西の庄5-16-1  
TEL: 525-1500 FAX: 525-1661 市役所控室: 524-5613

## 就学援助制度の充実で負担の軽減を

### 原爆投下から64年目の夏

8月6日は64年前に広島に原爆が投下された日です。今年も、恒例となった三井寺・観音堂の「原爆犠牲者慰霊・世界平和祈願法要」に今年も参加しました。今年には特に、オバマ大統領の核兵器のない世界の追求を宣言したプラハ演説などから世界平和に対する国民の関心が高まっているように感じます。

福家俊明長史さんからも、核兵器廃絶のオバマ演説にふれながら「核廃絶で被ばく国日本がリーダーシップをとれないことは日本人として、残念に思う。原子爆弾は失うことは多く、得ることはない。戦争をしないと誓った憲法を守り、核兵器を廃止しましょう」と呼びかけられました。

### 平和の大切さ ひしひしと

毎年8月は、いっそう核廃絶や平和への願いが高まります。大津市歴史博物館で開催されている「戦争と市民」展を見ました。夏休みと言うこともあり、家族連れの方が多く見られました。

展示を見れば見るほど当時の生活が戦争一色で染められていたことがよくわかります。学級日誌には、何度も空襲警報で活動が中断された様子が書かれていました。子どもたちの日用品には鉄砲や戦車の絵が描かれ、子どもの頃から兵隊にあこがれる環境づくりがされていました。

戦場から家族に宛てた手紙や、戦死を知らせる手紙などは、何度見ても心が痛みます。

終戦から64年。日本でこの間戦争が起こらなかったのは憲法9条に守られてきたからです。悲惨な戦争を二度と繰り返さないためにも戦争を経験したことのない世代の私たちが、先駆者の思いをしっかりと引き継がなければと強く思いました。

(石黒かづ子市議)



子どものことも  
ゆきどどいた  
教育を

去る7月28日、民主団体が大津市教育委員会に「就学援助制度に関する要望」をおこない、日本共産党大津市会議員団も参加して懇談しました。派遣切りや、正社員のリストラなどかつてない景気悪化・雇用不安のもと、子どもの教育費の負担が子育て世代に重くのしかかります。高校、大学の学費が払えず、途中退学を余儀なくせざるをえないといった実態も伝えながら、大津市での一層の制度充実と保護者負担の軽減を求めました。

(主な懇談内容)

\* 就学援助制度の適用基準を生活保護の1.7倍に引き上げること(現行1.2倍)

\* 通学費給付・修学旅行補助・学用品などの支給内容の充実

市教育委員会は、「大津市は他の自治体と比べて頑張っているほうである。今、財政難のため経費削減を言われており、その中では今の水準を維持することで一杯である」としながら「6月議会で、杉浦議員の質問にあったようにほとんど使用しない学用品の購入については、一定の整理が必要だと認識し、各校に指導していききたい」と答えました。貧困と格差が広がる中、子どもの人権と教育を受ける権利を保障することは、なにより優先されるべきです。

## 侵略戦争を正しなかったとする教科書を子どもたちには渡せない

2010年度から使用する中学校の教科書採択が始まっています。

4年前(2005年)、前回の採択では、全国の公立学校のうち、東京都杉並区、栃木県大田原市、東京都・滋賀県・愛媛県の中高一貫校と特別支援学校というごく少数の地域で扶桑社版の『新しい歴史教科書』が採択されました。大津市では扶桑社版の『新しい歴史教科書』をめぐって、市長がこの教科書を評価する発言をしました。多くの市民からは批判と採択反対の声が上がりました。

今年採択される教科書の使用期間は、通常の半分の2年間です。2012年度から学習指導要領が変更されるため、採算を考えた教科書会社はほとんどが検定申請しませんでした。しかし今年には自由社版の教科書が新たに加わったため、歴史教科書の採択がおこなわれることになりました。「新しい歴史教科書をつくる会」の扶桑社版・自由社版いずれの教科書も支配者・為政者の立場に立った恣意的な歴史叙述、庶民が歴史をつくってきた事実を軽視する、国民主権の立場にたっていない、何より明治以

降のわが国の侵略行為に対する反省、過去の戦争に対する反省の念を欠いている点など、日本国憲法の理念に反し、平和と民主主義、人権の保障を求める国民の願いに背くものです。

横浜市では4日の教育委員会自由社の教科書の採択が強行され、市民や民主団体が抗議集会を開催したり、現在扶桑社版の教科書を使っている地域では、扶桑社版・自由社版教科書の採択に反対する取り組みがすすまられています。

大津市では8月24日(月)に臨時教育委員会が開催され、教科書採択がおこなわれます。

この機会に教科書の実態を知ることや、子どもたちにとってどのような教科書が望ましいのか、よりよい教科書が採択されるように、地域で話し合ったり、委員会を傍聴するなど草の根の運動を広げましょう。

